

令和6年度 第1回 中海・宍道湖・大山圏域市長会総合戦略推進委員会
各委員意見のまとめ

1. 人口及び中海・宍道湖・大山圏域市長会事業について

○海外向けプロモーション、誘客促進は（香港、台湾、ソウル便の増便など）国際線の状況が今年度大きく変わると思われる。それを加味した、有効に使うような方向性を出していただきたい。

インフラ関係は昨年8の字ルート整備推進会議が立ち上げられて、要望活動をされたとのこと。8の字ルートはすべてのインフラにつないで有効活用するインフラであるとの位置付けであると考え。早期整備に向けてそれを全面に出して取り組みを。

○今年の温泉祭、建国花市では、観光戦略のアプローチを変えて、直行便を活用した、より具体的なこの地域の楽しみ方をお伝えして、空路が就航すれば、直に活用してもらえるような、取り組みが必須と思う。国際交流員も活用し、具体的な情報発信も。台湾との交流についても、具体的に空路を活かして何ができるか、新しい取り組みを考えていくべきではないか。もっと前がかりに取り組みを進めて行くべきではないか。

○（国際線は）圏域共有の財産なので、向こうから来ていただくことによる経済効果を求めることもあるが、こちらからのアウトバウンドも路線の維持、発展に寄与する。具体的な新しい施策が必須と考える。

○（国際線を活用し）学生に短期研修の機会など支援いただくとありがたい。

○若者をともに育てるプロジェクトは鳥大の特定のコース生だけでなく、鳥大、県大などもある。特定の大学だけと結ぶのではなく、そろそろ次のステップへ行く時期に差し掛かっているのでは。

○U、Jターンの人口のダム機能をきちんと数字で説明ができるようにすべき。

○関係人口がその後を追いにくいが、数が分かると色々な人が関わっているという事が見えてくる。取りづらい数字ではあるが、関係人口も数字をとって、公開されると他の地域でも動き出しができるのでは。

○インバウンド、国内旅行者について、圏域への送客に力を入れていかなければいけない。ホームページに掲載したり SNS を活用したり、商談会を開催したり、日本全国同

じような施策を打っているのでは。よりインパクトのある方法も含めて、プロモーションの方法も考えていかなければならない。

○中海・宍道湖・大山圏域は鳥取島根両県にまたがる特殊な圏域。圏域が一体化して動くことのメリット、意義がある事業に重点化しないともったいない。移住定住、環境教育は県、各市も行政施策として予算化して取り組んでいる内容。この圏域で重点事業化する必要があるか。例えば、8の字ルートについては、両県の一部の地域を結んで、60万人口圏域をさらに押し上げていこう、利便性が高く、どこに企業が立地しても機能できる地域を形成していこうという意義深い事業。そういったものは、市長会で押し上げて行く事業。そういう視点で絞ると、事業そのものが県、市と線引きができて役割分担が見えてくるのでは。

○総合戦略のポンチ絵と一つ一つの事業が整合性がとれていないように見える。資料と事業がきちんと対応していない。全体的にもう少し整理をする必要がある。

2. 第3期総合戦略について

○第3期の総合戦略を考える上で市長会として予算を出し合って共同事業で進めるものと、共通目標化して、各自治体でそれぞれの予算責任の中で取り組むものを分けて考えると、総合戦略の色分けができるのでは。共同事業と共通目標を分けて考えるべき。

○全てを市長会で行うべきか。2次交通などどこの市も抱えている問題。各市で解決すべきものも整理ができるのでは。

○インフラ整備としては8の字ルートの整備があって、それを活用した港湾、空港の利用がある。港湾の利便性の向上についても、圏域内での利用も促進、圏域が連携した港湾の利用促進。新規航路や既存航路は、圏域の財産として、圏域全体で維持、利用を促進していくことを表現していただきたい。境港、河下港についても同様。